

桜の開花にあわせて2016年の銀座ミツバチプロジェクト養蜂活動がはじまります。私たちはビルの屋上でセイヨウミツバチだけでなく、在来種のニホンミツバチも飼育しています。

昨年、ニホンミツバチとそのハチミツがスローフード・インターナショナル(イタリア/ピエモンテ州)の「Ark of Taste」(味の箱舟)に登録されました。これは世界中の地域食文化や生活にとって大切な農水産物で絶滅の恐れのある種をリストアップし守っていく活動です。

そのスローフード協会の活動の1つにSlow Honeyがあります。小規模生産でも地域の自然を守るために蜜や花粉源となる在来種の植物を植え、生物の多様性を保全しながらミツバチの受粉により豊かな自然を形成しつつ地域の農業を支援すると同時に、丁寧なミツバチ飼育で美味しく安全なハチミツを生産していくことがSlow Honeyです。

いま世界の都市でSlow Honeyに注目が集まっています。ロンドン、パリ、ニューヨークといった世界を代表する都市には都市養蜂の協会があり、メンバーは年々増加し養蜂教室も開催されています。

東京でも銀座ミツバチプロジェクトをはじめ連携する丸の内や永田町の養蜂場、渋谷・赤坂のプロジェクトや八重洲ブックセンター、原宿東郷記念館など企業で取り組む養蜂、最近では首相公邸でもミ



## 小規模でも自然を守るSlow Honey 世界の都市で養蜂、東京も各地で

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 理事長 高安和夫

ツバチ飼育しています。

渋谷から銀座のエリア(渋谷区、港区、千代田区、中央区)だけで十数か所の都市養蜂場があります。その養蜂の様子を撮影したDVDを作成し、9月にトリノで開催されるテッラ・マードレ(スローフード世界生産者会議)で発表する準備も進んでいます。この企画はイタリア養蜂協会からも歓迎を受けて、都市養蜂の国際カンファレンスでテーマに取り上げられる予定です。

築地跡地から広がる共生構想

私たちの活動する中央区では築地市場移転の跡地利用に注目が集まっています。オリンピックの選手村ができる晴海から豊海、そして隅田川を挟んだ築地のエリ



カルロ・ペトリニSF1会長に日本蜜蜂ハチミツを届ける筆者

アを東京の海の玄関にしたらどうかという構想があります。

そして築地のエリアから、銀座、日比谷、赤坂、青山、渋谷へと続く環境共生未来型都市を提案しています。高層建築と中低層の街のバランスを取りながら、ミツバチやその他の昆虫や鳥、小動物が生息し移動も出来るような緑の回廊と皇居、赤坂御用地、明治神宮、新宿御苑、代々木公園が有機的につながると実現は決して夢ではありません。

そして公園や街路樹の花々をミツバチが受粉する。受粉すれば桜の花も実を付けます。その実を鳥が食べ来て、やがて新しい命が芽生えます。鳥は木の実だけでなく虫も食べてくれます。そうなる公園や街路樹の薬剤散布の回数も減り、地中の微生物から昆虫、またそれを捕食する鳥や小動物が街に戻って来ます。

自然や環境に配慮した東京の表玄関の再開にミツバチが登場すると楽しい展開になりそうです。

### 事業紹介

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。平成22年6月環境大臣表彰。平成24年4月農林水産大臣より「食と地位の『絆』づくり」選定を受ける。